

令和3年度 第1回 第8期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

- 【日 時】 令和4年3月25日（金） 午後2時～5時
※午後2時～3時までは、新任委員のクリーンセンターおよびむさしのエコreゾートの見学を実施
- 【場 所】 クリーンセンター2階 見学者ホール
- 【出席委員】 山谷修作（委員長）、田口誠（副委員長）、朝生剛、稲垣貴之、
（敬称略） 加藤慎次郎、志賀和男、杉山日菜子、中村充、長山楓、西上原節子、
三原美菜子、村井寿夫、茂木勉
- 【事務局】 ごみ総合対策課長 ほか
- 【欠 席】 花俣延博
- 【傍 聴】 1名
- 【配付資料】
- 資料 1 第8期 武蔵野市廃棄物に関する市民会議委員一覧
資料 2 武蔵野市廃棄物に関する市民会議運営に関する基準
資料 3 武蔵野市廃棄物の抑制・再利用と適正処理及びまちの美化に関する条例及び条例施行規則
資料 4 廃棄物の処理及び清掃に関する法律、武蔵野市廃棄物の抑制・再利用と適正処理に関する条例、武蔵野市一般廃棄物処理基本計画（概要版）
資料 5 一般廃棄物処理基本計画の策定スケジュールについて（案）
資料 6 武蔵野市のごみ問題について
- 【配付資料】
- ・ 武蔵野市一般廃棄物処理基本計画 令和元年度～令和10年度
 - ・ 令和2年度一般廃棄物処理基本計画事業取組
 - ・ 令和3年度事業概要 廃棄物の抑制・再利用と適正処理
 - ・ 武蔵野市ごみ便利帳 ecoブック 令和4年度
 - ・ 武蔵野市ごみと資源の収集カレンダー 令和4年度版
 - ・ 武蔵野ごみニュース vol.27・vol.28
 - ・ 私たちが出したごみは、どこへ行くの？

1 開会

- 【事務局】 定刻となったので市民会議を開催する前に、委嘱状についての説明と資料の確認をする。環境部長の挨拶。委員と事務局の自己紹介。委員長及び副委員長の選任を行う。進行を委員長へお願いする。

2 議題

(1) 会議の運営基準について

- 【委員長】 事務局をお願いします。
- 【事務局】 資料2についての説明。
- 【委員長】 事務局の説明に質問はあるか。運営については事務局案のとおりでよいか。

(2) 武蔵野市廃棄物に関する市民会議の役割について

【委員 長】説明をお願いします。

【事務局】事務局説明。

【委員 長】事務局の説明に質問はあるか。特に無いようなのでご了承いただくことでよいか。

【全 委 員】異議なし。

(3) 武蔵野市一般廃棄物処理基本計画と策定スケジュールについて

【委員 長】説明をお願いします。

【事務局】事務局説明。

【委員 長】事務局の説明に質問はあるか。

【A 委 員】基本計画は1年でまとめるとのことだが、任期2年のうち残り1年は何をするのか。

【事務局】計画策定の進捗管理や実績報告がメインになる。

【委員 長】他にあるか。他に質問はないので次に進む。

(4) 取組み・課題等に関する委員からの意見について

【委員 長】(4)について、事務局から説明願う。

【事務局】本日は、ごみ処理やごみ減量、再資源化など身近な問題や社会全体の課題等について、委員の皆様が日頃感じている事を自由に発言いただく。

【委員 長】全委員に発言をお願いします。

【B 委 員】スーパーマーケットとして武蔵野市内の店頭でペットボトル、トレー、紙パックの3種類の回収ボックスを用意し、リサイクルに努めている。問題点は、飲み残しの入った飲料容器や、全然違うごみを入れられる点である。そのようなものが入ると分別や処理に支障をきたしリサイクルしにくくなるため、きれいな状態で持ってきてほしい。また、食品ロスについては、商品製造過程で発生する生ごみは食品リサイクルに回している。夕方スーパーマーケットに行くと値引きシールが貼られているが、ぜひ値引きシールが貼られたものを買ってほしい。食品ロスを防ぐため非常に意味がある。

【C 委 員】社内全体としてごみ減量は大きな課題だ。一般廃棄物と産業廃棄物で、それぞれリサイクル率の目標値を設定している。社内全体では、産業廃棄物についてはリサイクル率 100%を目指しており、今年度は12月までに99.8%達成している。A店とB店の産業廃棄物リサイクル率はどちらも100%を達成した。しかし一般廃棄物は、A店は78.5%、B店は約45%となっており改善の余地がある。ごみ減量の取り組みとしては、紙を使わないようにしている。すべてのテナントにipadを配布し、データ管理をしている。申請や承認等も、すべてタブレットやパソコン上で行っている。このような取り組みを行うなかで紙は減ってきているが、食品ロスはA店では売上の50%を食料品が占めており、減らすことは難しい。こちらはフードバンクに寄付することや、催事期のケーキは予約販売にして無駄に作らないように努めている。施設に食料品を自ら処分できる機械を導入し、ご

みを出さない取り組みなども行っている。

- 【D 委員】「SDGs」という目標の有無に関わらず、我々は持続可能な開発のための取り組みを行う必要がある。仕事のなかで、クリアファイルを子どもたちに配っているが、より環境に優しい 100%再生 PP 利用のものにした。値段は高いが子どもが使うため切り替えた。リサイクルの取り組みの地盤は子どもからだと考えている。また、紙については、「紙製容器包装識別表示マーク」のあるものは古紙に入れていたが、ごみニュースを見るとものによっては「燃やすごみ」になっている。改めて正しい分別を学んだ。ひとつのものから自分たちが何を伝えられるかをこの市民会議から発信したい。
- 【E 委員】コロナ対策によりプラスチックや紙皿を使用せざるを得ないため、ごみ減量の努力をしたくてもできない。ごみに関して身近に感じてもらうことが重要だ。身近に感じてもらううえで大人に伝えるのはなかなか難しい。身についた生活習慣などが影響し、自分の手から離れてしまえば良いという気持ちや甘えがあると思う。そこで学校を巻き込むなどして、子どもたちに伝える必要があると考える。特に中高生よりも小学生のうちから、家で使ったトレーを洗って学校で集めてみるなど、子どもたちにごみを身近に感じてもらうことが大事だ。
- 【F 委員】クリーンむさしのを推進する会は大きく 3つの活動を行っている。1つ目は家庭の生ごみを拠点回収し、たい肥化し究極の有機野菜をつくること。2つ目はお茶碗のリユース。3年前の武蔵野桜まつりでは、段ボール 30箱分のお茶碗をリユースできた。3つ目はプラスチックごみの減量だ。皆様には特に生ごみたい肥とお茶碗リユースの取り組みを知っていただきたい。生ごみは、クリーンセンター内にたい肥ボックスを設置し、拠点回収を行っているが、携わる人々は高齢化が進み、若い世代が来ない。親子連れで野菜を作りながらたい肥化すると増えそうだが、やりたいと言ってくれる人がいないことが課題である。次のお茶碗リユースだが、コロナ禍でコミセンの来場者数が少ない。非常にニーズがあるのに上手くできていないことが課題である。
- 【A 委員】私はクリーンセンターの建て替えのときからごみ行政に携わっていた。その時から解決されていないと感じることが大きく 2つある。ひとつはプラスチックの問題だ。プラスチックをリサイクルに回すのか、燃やす際にどのくらい燃やしているのか分かっていない。世の中では海洋プラスチック汚染問題が話題になっている。製造者も消費者もプラスチックの利用を減らす必要がある。さらにリサイクルするプラスチックを他自治体まで運ぶ燃料費の問題も総合的に考えないといけない。また、ごみ量の削減というのは、現クリーンセンターを作った時に掲げられたが、武蔵野市の人口がさらに増えているので、実際ごみは計画通り減っているのか問題だ。プラスチックの話だが、私もクリーンむさしのの一部の方と一緒に、プラスチック資源循環促進法を学ぶ目的で、4月に勉強会をする。
- 【G 委員】一市民の意見として 3点話す。ひとつはごみ袋に工夫があると良いと感じる。武蔵野市の LINE の公式アカウントがあるが今まで知らなかった。ごみ袋に QR コードを載せ、それを読み込むと、LINE の公式アカウントや武蔵

野市のホームページにアクセスできる仕組みがあると良い。自治体によっては、燃やすごみや燃やさないごみのイラスト付きのごみ袋があるため、武蔵野市も同様にできると分別がしやすくなると思う。また、飲食店のごみ箱の表示を分かりやすくしてほしい。というのも、飲食店は市民以外にも利用するが、住む地域によってごみの捨て方が異なる。武蔵野市の分別方法を分かりやすく表示することでより分別が進むと感じた。最後にごみ減量については、市民1日当たりごみ量の目標を600グラムとしているが、現状の660グラムに対する、60グラムの差をペットボトルの本数やビニール袋の枚数など具体的に例えて可視化することで市民も取り組みやすくなると感じた。

- 【H 委員】自分がごみをどれだけ出しているか分からないため、分かりやすく知ることができれば良いと思う。また、アルバイトで日々感じるものとして、大型店の飲食店で働いていると食品ロスの多さを感じる。自分の店舗だけでなく、周りの店舗も閉店後、多量廃棄してるのをよく見てきた。以前フードシェアのサービスで販売員は夜残っている商品を安く買うことができる取り組みを試験的に行っていたが、現在は終了した。そのような取り組みと行政とが連携することで、食品ロス削減を推進できるのではないかと。
- 【I 委員】私の自宅には6つのごみ箱がある。それは武蔵野市の分別に対する取り組みを家族に伝える必要があると考え置いている。私もごみの分別は子どものうちから行うことが重要であると実感している。今回事業者の方々に要望したいことが3つある。1つ目は、過剰包装を減らすことだ。お菓子も大きな袋の中に個包装で商品が入っているのも食べやすいが、残るのはごみなので、これにもお金を払っていると考えると本当に必要なのか疑問に思う。2つ目は多く作りすぎないことだ。総菜などとても便利でよく利用するが、容器もプラスチックであり、リサイクル可能とはいえ環境に負荷を与えていると思う。また、予約販売だけにすると廃棄ロスが減って気持ちが良い。3つ目として、卵や豆腐など日常でよく使用するが、それらのプラスチック容器も最後はごみになってしまう。卵や豆腐も専用の容器を作り、入れ替えて持ち帰ることができれば理想的と感じる。
- 【J 委員】これまでの意見ででてきた食品ロス削減やプラスチックの問題、啓発事業などの課題は全て重要であるが、市のリソースである人やお金には限りがある。どのようなバランスで注力するのが課題になる。さらに、総合的な視点で環境に良いことは何かを考えることも悩ましい。リサイクルするプラスチックを他自治体まで持っていく時も車に乗せていくため、ごみは減るかもしれないが、燃料やCO2の問題が生じる。また、プラスチックも水で洗すぎると下水道に負荷がかかる。下水道の事業にも年間30億円近くかかっている。総合的な視点で、どうすれば環境に良いのかをこの市民会議のなかで考え、議論できれば良いと思う。
- 【K 委員】市内でびん、缶、ペットボトル、プラスチック製容器包装などの資源物を収集している。最近特にSDGsや脱炭素社会など、国際的な要求がごみ処理の分野にも及んでいる。大量生産、大量消費、大量廃棄という時代が完全に終焉し、今後どのように資源循環を促進するかということにシフトされ

ている。コロナの感染対策によるプラスチックが増加したが、これらは衛生的な観点から焼却せざるを得ないが、再利用しやすいように法が整備されてきたと感じる。そのため徐々にプラスチックの使用量は削減されると考える。その中でも使わざるを得ないものは残ると思うので、それをどのように資源循環に回すか、コストの問題や燃やすものと処理するものをどのように区分けしていくかが今後の課題である。また、分別について、特に高齢者はごみの分別が負担になる。分別を複雑にしたり、増やすことは環境に良い面もあるが、高齢化社会の中で市民の負担になりすぎないかと感じる。

【副委員長】 いろいろな市民がいて意識の高い方や知識の多い方から、環境について普段あまり考えていない方もいて非常に開きがあると思う。あまり環境問題に関心のない方にリサイクルの意義を分かりやすく伝えていくことが大事だと思った。計画策定においても新しいものを取り入れ、市民の方に分かりやすく伝えることが大事だと考える。また、紙の話が出たが、大学でも紙の資料を使わなくなった。すぐに行うのは難しいと思うが、足元からできることはないか考えていく必要がある。

【委員長】 情報提供だが、食品ロス削減推進ということで自治体が国の法律の基本方針に基づいて、地域の食品ロス削減推進計画を策定することが努力義務になっている。実は多摩地域の自治体でみるとこの取り組みを実施する自治体は少ない。武蔵野市が食品ロス削減推進計画を策定するとなれば、多摩地域では先駆的な取り組みとっていいのではないかと。また、プラスチックの最近の動きとしては、23区では容器包装プラスチックの分別を約半分の自治体しか取り組んでいなかった。ところが来年度から製品プラスチックと一緒に資源化することをいくつかの区が着手し始めているところである。それから武蔵野市の市民1人1日当たりのごみ量は、30市町村中23位とのことであり、取り組みが実際の成果になって出てこない。これを改善するにはどうしたらよいか。武蔵野市は資源化率の数値は良いが、ごみ自体の排出量を少なくすることは難しい。その原因のひとつとして、市民の所得、資産が影響をしているのではないかとということが前々期の市民会議で取り上げられた。所得が多いと消費も多くなりごみの量も増えることにつながりやすいので、そのような中で減量を進めるといっては並大抵のことではない。第8期市民会議において皆様からの建設的な意見を期待する。この後は、委員同士で議論する時間にしたい。

【A 委員】 事業者の取り組みについて聞く。商品が紙の容器に入れて売られているスーパーもあれば、プラスチックのところもある。また、肉もトレーではなくビニールに入れていると思うが、プラスチックの包装を削減する方向で取り組みがあれば紹介いただきたい。

【B 委員】 景気が良かった時代には、飾り付きなど豪華な方が売れた。現在は、ビニール袋だけになったところもあるが、全体を見ると依然として飾り付き容器もまだあると思う。武蔵野市は確かに資源物のリサイクルが進んでいるが、そもそもの総量を減らさなければならない。また、レジ袋を無料で配布していたが有料化した。加えて、今年4月からプラ新法が施行されるが、

例えばアイスのスプーンもプラスチックから紙になる。フォークやスプーンも以前はひとつひとつプラスチック製で包装されていたが、過剰包装を減らし、プラスチック自体も 100%ではないがリサイクル製品に変える流れになっている。容器包装については、例えばお菓子の包装などはなかなか改善されない部分があるが、製造メーカー側で改善してきている。調味料やジャム、洗剤ボトルなども同様に詰め替えボトルを販売し、プラスチックの使用量を減らしている。

【委員長】ありがとうございます。他にいかがか。

【F 委員】私は若い方々の話に興味がある。I 委員から過剰包装について、G 委員から LINE の公式アカウントについて、もう少し教えてほしい。クリーンむさしのを推進する会で量り売りのお店を紹介する動画づくりをしており、我々の動画を見ていただきたい。その辺のお話を 2 人からもう少し聞きたい。

【I 委員】私も各商品で量り売りになればよいと思っている。世の中商品が増えすぎてごみも増えているように感じるので、量り売りのお店が身近にあれば行きたいと感じている。ビール瓶の回収と似ているが、卵の容器を持っていない人は容器を購入し、その容器を持ってきたらお金が戻るような仕組みができれば良いと思っている。そのような活動があると消費者も励みになる。確かに面倒に思う方もいると思うが、その人たちが悪いわけではない。エコバッグを持った方が増えているのと同じように意識の高い人はさらに進めて、そうでない人もできる取り組みがあれば良い。

【G 委員】私は普段紙を使うことがない。ごみカレンダーを配られているがあまり見ずに、ネットで情報収集することが多い。なので、LINE やホームページで一括して見れると大学生にとって便利だ。一方スマートフォンや SNS を持っていない方に対する配慮も併せて必要だと思った。また、量り売りのお店には私もよく行く。国分寺に量り売りのお店があるので参考になると思う。次世代の教育も重要だが、大人への啓発も重要だと思っている。

【委員長】E 委員もいかがか。

【E 委員】私はコミュニティセンターの一員として関わっているが、市から毎月 2 回、紙のチラシが大量に届く。最近来館者数が減少しているためほとんどのチラシを廃棄しており、有効活用されていないと思う。一方、全ての書類を紙でなくデータにすると情報が届かず置いていかれる人ができる可能性がある。例えば、チラシの情報を DVD 化したものをコミセンのモニターに流すことができれば、紙の削減ができる。また、チラシは 1 枚だけコミセンに送り、来館者には必要に応じて印刷して渡すことができれば良い。何か新しい形を率先して作っていきたい。

【C 委員】私たちの店舗では、数多く入っているテナントのうち、1 つでも入れ替わると差替える必要があることから、紙のフロアガイドを廃止している。ポスターで一枚ご案内を貼りそこに G 委員の話にあった LINE の QR コードを付けたり、LINE で友達登録をすると店舗から自動的にチラシやクーポンが届くという形で進めていく。ショッピングセンターは多くの方が利用するので 100% 上手くいくことはないが、情報に取り残されるお客様を作らな

いようにしたい。食品ロスの問題や量り売りについてはやりたい気持ちはあるが、衛生上守らないといけない一線がある。

【委員 長】非常に有意義な議論だったと思う。食品ロス、プラスチック削減には皆さんの関心が高いことが分かった。啓発媒体については、現時点では紙ベースであるが、web を使った手法についても取り入れていくというのも行政として重要ではないか。時間の関係上次に移る。

7 その他

【委員 長】事務局から何かあるか。

【事務局】議事要旨については作成の上、委員の皆様にご確認を頂くことをお願いする。第2回は5月27日（金）に開催予定である。

【委員 長】委員の皆様からは、全体を通して何かご意見・ご質問等はあるか。

8 閉会

【委員 長】以上で本日のごみ市民会議を終了する。